

表 4. 見守り契約、任意後見、遺言にかかわる事例の紹介

## 見守り契約、任意後見、遺言に関わる事例

70歳のAさん(女性)は、2年前に夫Bさんに先立たれてしまい、自宅で暮らしていません。Aさんには子供がなく、料理や洗濯など家事はすべて1人でこなしてきました。

年金や貯金も平均的な家庭ほどあるとAさんは思っています。そんなAさんでしたが、糖尿病であると診断され、緊急入院しました。健康が取柄のAさんは、大変弱気になってしまいました。

病院の医療相談室の相談員から、身寄りのないAさんは、司法書士などの専門家に後見人になってもらえば、何かあっても安心ではないか、という話を聞きました。

司法書士に相談し、成年後見制度のことを知り、見守り契約と備えとしての成年後見制度(任意後見)の契約がAさんには必要であることがわかりました。Aさんの希望は、今は元気で生活できるので変に干渉されるのは困ることと、将来、糖尿病が進行したときや認知症になったときの支援です。今の気ままな生活をそっと見守ってもらいたいという気持ちでいっぱいです。

Aさんは、自分で選んだ有料老人ホームに入所することが希望です。また、死後の事務も依頼しようと思っています。Aさんは、3ヶ月程打ち合わせを重ねた末、入所したい施設も検討し、死後の事務についても相談し、質素な予算を立てました。

これらの希望が叶うように、司法書士と見守り契約と備えとしての成年後見制度(任意後見)の契約を締結し、そして死後の事務についても遺言を残すことになりました。

### 参考図書

菅 富美枝著、イギリス成年後見制度に見る自律支援の法理—ベスト・インタレストを追求する社会へ—、ミネルヴァ書房、東京、2010。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。